

トップインタビュー



近畿工業 代表取締役社長 和田 知樹氏

二軸せん断破砕機のトップメーカーとして知られる近畿工業(神戸市、☎078・351・0770)は8月19日、和田知樹氏が社長に就任した。環境機器メーカーとして業界へ貢献を深めてきた同社は近年、太陽光パナリサイクルや金属リサイクルに向けた設備を次々とリリース。AI選別ロボットの開発も加速するなど、先端の取り組みを積極的に進めている。創業70周年を超えてさらなる進化を遂げる同社の今後について、新たなリーダーに話を聞いた。(聞き手||本紙・大津)

金属Rへの貢献に注力

差別化で経営を強靱化

社長就任の意気込 せんし、求められる性 AI選別ロボットの開 みを高めていきたい。能や処理対象物も変化 発を進めていますね。見せてきます。 和田 廃棄物業界はと しています。ですから、当社でもAI自動選別 最近では、産廃処理 の皆さんに貢献できる ても変化の早い業界で 現状の顧客ニーズに追 口ロボットの開発を進め と金属リサイクルの垣 のでは...という思い すから、まずは自社の いつくのはもちろん、 ており、NEW環境展 根がなくなってきたお があり。 強靱化、景気に左右さ 顧客と一緒に新しいも (主催・日報ビジネス) り、当社でも小型家電 雑品処理や人材確 れない体質を作ってい のを作り上げていく。 にも出展しましたが、 や雑品向けの破砕機へ 保などの課題に、装置 きたいと考えていま それがひいては、日本 他社と差別化するた の引き合いが強まりま 側からアプローチして いくと。

す。そのために、当社 のリサイクルへの貢献 め、ターゲットは銅・ した。そうしたところ 使用しやすく効果的な装 置を開発していきたいま す。今後は、その先の 課題としてダスト選別 への挑戦も視野に入れ ています。難しい課題 ですが、長いタームで 売れる商品ではありま 特に建設系産廃向けの です。次回は、アップ 工程で人海戦術に頼っ

工場系・使用済みの製品・金属類

品名	2019年10月			2019年9月		
	1t当たり	数量	金額	1t当たり	数量	金額
合計	3万5502円	83万5325t	225億5563万円	3万7647円	654万6863t	208億2175万円
鋼鉄くず	6万1039円	2901t	1億7707万円	5万7308円	2万3853t	13億6894万円
ステンレス鋼くず	11万981円	2万3541t	26億1284万円	10万8127円	18万4637t	199億6430万円
合金鋼くず	5万5092円	5683t	3億1308万円	7万3592円	4万365t	29億6978万円
すずめっきくず	2万9990円	259t	777万円	3万9566円	5618t	2億2228万円
切削打ち抜きくず	3万4002円	17万978t	58億1362万円	3万7058円	112万4877t	416億8533万円
ヘビーくず	3万94円	27万8292t	83億7490万円	3万2767円	280万3725t	951億4558万円
シュレッダーくず	3万2131円	6万1293t	19億6943万円	3万4482円	49万5639t	170億9065万円

1.66%減だった。前 比2万4421t減た